

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年11月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】電気機械が上昇するも、他産業では低下

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数で電気機械が前月の低下の反動増があった以外は、化学工業をはじめ前月比で低下した。ヒアリングにおいては、好調な業績を示す企業がある一方、原材料費や燃料費の高騰による収益圧迫に加え、米中貿易摩擦の長期に伴う、受注の鈍化や将来的な影響を懸念する企業も見られる。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、鉱工業生産指数で木材・木製品以外は前月比低下となった。年末商戦に向けた動きが見られるものの、例年程度に留まっており、また原材料費、燃料費の価格高騰分に対する価格転嫁が進まないなど、全体的に厳しい状況が継続している。

【設備投資】一部には投資姿勢に慎重な企業も見られる

○設備投資は、企業の合理化・省力化投資が旺盛な状況に加え、工作機を中心とした受注も活発である。しかし、米中貿易摩擦の長期化による影響から、一部に投資を控える企業も見られ、今後は投資意欲の減退が懸念されている。

【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、ドラッグストアやホームセンターが牽引したものの、コンビニや家電販売店に前月の反動減が見られた。全体的な動きとして、例年のとおり、夏から年末にかけての落ち込みが見られる。

【観光】宿泊客数は前年同月を上回った

○観光は、天候に恵まれ、前年同月比で観光客数が上回り、宿泊客数は同水準となった。

【資金繰り】良好な資金繰り環境の一方、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、業績好調な企業にとっては問題なく、借入環境にも変化は見られない。一方で、小規模企業では長引く人手不足や収益圧迫等を背景に、依然として厳しい状況にある。また、今後は米中貿易摩擦による影響も懸念される。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足の状態が継続している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする一方で、県内中小企業にとっては、業種を問わず、人手不足が慢性化していることから、現在は外国人労働者の受入体制に関心が集まっている。